

JAPAN PATENT OFFICE

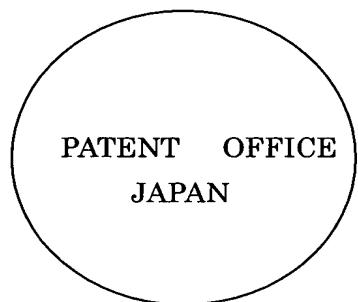
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

Date of Application: December 27, 2002

Application Number: TOKUGAN 2002-379009

[ST.10/C]: [JP 2002-379009]

Applicant(s): ZUIKO CORPORATION



September 30, 2003

Commissioner,

Japan Patent Office Imai Yasuo

Japan
Patent
Office seal

Japanese Certificate Number: SYUSSYOUTOKU 2003-3080032

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年12月27日
Date of Application:

出願番号 特願2002-379009
Application Number:

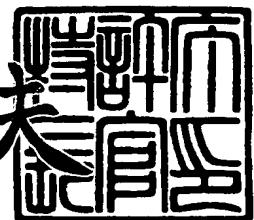
[ST. 10/C] : [JP2002-379009]

出願人 株式会社瑞光
Applicant(s):

2003年 9月30日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 1918Y

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61F 13/15

【発明者】

【住所又は居所】 摂津市南別府町15番21号 株式会社瑞光内

【氏名】 一浦 雄三

【発明者】

【住所又は居所】 摂津市南別府町15番21号 株式会社瑞光内

【氏名】 中門 正毅

【発明者】

【住所又は居所】 摂津市南別府町15番21号 株式会社瑞光内

【氏名】 牧村 貞利

【発明者】

【住所又は居所】 摂津市南別府町15番21号 株式会社瑞光内

【氏名】 倉田 修平

【特許出願人】

【識別番号】 591040708

【氏名又は名称】 株式会社瑞光

【代理人】

【識別番号】 100102060

【弁理士】

【氏名又は名称】 山村 喜信

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-344314

【出願日】 平成14年11月27日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 027029

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0001626

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 吸収性物品

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 液保持性の吸収体を包むシートの表面に、防漏用のカフを設けた吸収性物品において、

着用者の身体の表面に対面するシートの表面部から当該シートが立ち上がるようすに折り曲げられて二重となって前記カフが形成されていると共に、

前記カフにおける少なくとも基端部の近傍には、当該カフが二重に折られた状態を保形するための接着部が設けられている吸収性物品。

【請求項 2】 液透過性の表面シートと、液不透過性の防漏シートと、これらの表面シートおよび防漏シート間に介在された液保持性の吸収体と、からなる本体を少なくとも有する吸収性物品において、表面シートを折り込んで立ち上げ片が形成されるとともに、立ち上げ片が疎水性の第1の接着剤を介して接着されていることを特徴とする吸収性物品。

【請求項 3】 前記立ち上げ片には、伸長状態の弾性体が第2の接着剤を介して貼着されていることを特徴とする請求項2記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、使用者が下着とともに狭い股間において着用する生理用ナプキン、失禁用パット、おりもの処理用パット、使い捨ておむつなどの吸収性物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

一般に、吸収性物品、例えば、生理用ナプキン11は、図5および図6に示すように、液透過性の表面シート13と、液不透過性の防漏シート14と、これらの表面シート13および防漏シート14間に介在された液保持性の吸収体15と、からなる縦長状の本体12を少なくとも有している。そして、吸収性物品11においては、着用中において、経血などの排泄液を吸収体15で確実に吸収する

とともに、排泄液が物品11の外へ漏出する様がないように、本体12の左右各端縁に位置して、液不透過性材料、例えば、撥水性不織布から形成された立ち上げ片16が設けられている。

【0003】

ここで、前記立ち上げ片16は、前記各シート13、14とは別の部材で形成されており、その各側端縁が、表面シート13および防漏シート14にそれぞれ接合されている（例えば、特許文献1、特許文献2参照）。

【0004】

【特許文献1】

特開2001-252308号公報

【0005】

【特許文献2】

特開2002-315781号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、前述のように、立ち上げ片を表面シートや防漏シートとは別の部材で形成し、該各シートに接合する工程が必要なので、製造コストがアップする。

一方、前記立ち上げ片は、一般に、疎水性の不織布により形成されている。そのため、吸収性物品を構成する材料の種類が増加するため、材料費の増加は否めない。

【0007】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、立ち上げ片としての機能を損なうことなく材料の種類の増加を抑えて材料費の削減を図ると共に、製造コストの削減が可能な吸収性物品を提供するものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明のある吸収性物品は、液保持性の吸収体を包むシートの表面に、防漏用のカフを設けた吸収性物品において、着用者の身体の表面に對面するシートの表面部から当該シートが立ち上がるよう折り曲げられて二重となって前記カフが

形成されていると共に、前記カフにおける少なくとも基端部の近傍には、当該カフが二重に折られた状態を保形するための接着部が設けられていることを特徴とする。

【0009】

カフは、着用者の身体の表面に対面するシートの表面部からシートが立ち上がるよう折り曲げられた一对の立上部が二重となって形成されており、前記立ち上がる基端部において立上部を互いに接合してもよいし、あるいは、基端部の近傍を他のシートに接着してもよい。なお、カフは先端部が折り返されたように断面がヘアピン状に二重になっている。

【0010】

本発明において、カフを形成するシートは、液透過性の表面シートを折り曲げて一体に形成してもよいし、液不透過性の防漏シートで形成してもよく、あるいは、前記表面シートと防漏シートの双方で形成してもよい。また、カフを保形するために、カフの基端部を互いに接合する場合には、カフの概ね全域にわたってシート同士を互いに接着してもよいが、カフにおける少なくとも基端部の近傍のシート同士が互いに接合されてカフが保形されていればよい。

【0011】

カフのシート同士を接着する方法としては、疎水性の接着剤を用いてもよいが、シート同士を互いに熱融着させてもよい。

【0012】

本発明の他の吸収性物品は、液透過性の表面シートと、液不透過性の防漏シートと、これらの表面シートおよび防漏シート間に介在された液保持性の吸収体と、からなる本体を少なくとも有する吸収性物品において、表面シートを折り込んで立ち上げ片が形成されるとともに、立ち上げ片が疎水性の第1の接着剤を介して接着されていることを特徴とするものである。

【0013】

前記立ち上げ片は、表面シートを折り返して形成されている。そして、液透過性の表面シートを折り返して形成された立ち上げ片は、疎水性の接着剤によって貼り合わされていることから、経血などの排泄液が立ち上げ片を透過することは

ない。

【0014】

この結果、立ち上げ片を形成するための格別な疎水性の不織布は不要となることから、材料の種類を増加させることがない他、原材料費を低減することができ、全体コストを削減することができる。また、本発明の吸収性物品を生産する場合、供給する材料の種類が少ないため、供給装置の数を減らすことができる。

【0015】

本発明において、前記立ち上げ片には、伸長状態の弾性体が第2の接着剤を介して貼着されていると、折り畳み状態から本体を展開した際、弾性体が立ち上げ片を起立させることができる。

【0016】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0017】

図1には、本発明の吸収性物品である生理用ナプキン1の第1実施形態が示されている。

【0018】

この生理用ナプキン1は、液透過性の表面シート3と、液不透過性の防漏シート4と、これらの表面シート3および防漏シート4間に介在された液保持性の吸収体5と、からなる縦長状の本体2を有している。

【0019】

そして、表面シート3には、本体2の左右各端縁部において、折り返されて立ち上げ片31が形成されており、折り返された立ち上げ片31同士は、第1の接着剤6を介して接着されている。また、立ち上げ片31には、本体2を折り畳み状態から使用状態に展開した際、立ち上げ片31を本体2に対して起立させる弾性体7が伸長状態で第2の接着剤8を介して接着されている。

【0020】

立ち上げ片31の高さは、約2～40mmであることが好ましい。排泄液が本体2の外部に漏れ出ることを防ぐためである。このため、少なくとも第1の接着

剤6は疎水性であり、それはコーティング塗りやカーテンスプレイにより塗布される。なお、第1の接着剤6と第2の接着剤8の材料は同じであってもよい（例えば、ホットメルト）が、第2の接着剤8はコーム用ガン、スパイラル用ガン、またはオメガ用ガンなどにより、弾性体7に塗布されることが好ましい。弾性体7の部分部分に第2の接着剤8が塗布されることにより、立ち上げ片31にできるギヤザーの形状の見栄えをよくすることができるからである。

【0021】

なお、防漏シート4には、詳細には図示しないが、その表面に粘着剤が塗布された粘着剤塗布部を長手方向にわたって有しており、この粘着剤塗布部には、離型紙が貼着されている。

【0022】

図2には、本発明の吸収性物品である生理用ナプキン1の第2の実施形態が示されている。この生理用ナプキン1の本体9の構成は、立ち上げ片31が吸収体5の上に位置しない点を除いて図1に示す本体2のものと略同じである。表面シート3は、吸収体5の周囲にて防漏シート4と熱融着または接着剤により接続されている。接着剤が使用される場合、スパイラル用ガンによって接着剤が塗布されてもよい。図2に示す生理用ナプキン1では、本体9の左右各側縁に略台形のウイング部が形成されている。

【0023】

次に、このように構成された生理用ナプキン1の使用方法について説明する。

【0024】

まず、折り畳み状態の生理用ナプキン1を取り出し、使用状態に展開すれば、弾性体7が元の長さに復帰するように最短距離に縮小するため、立ち上げ片31は、本体2に対して起立する。この後、防漏シート4の粘着剤塗布部に貼着されている離型紙を剥離し、粘着剤塗布部を下着の股部内面に貼着する。次いで、生理用ナプキン1を装着した下着を着用すれば、起立された立ち上げ片31が表面シート3とともに肌に接触する。

【0025】

この場合、排泄液は、表面シート3を通して吸収体5に吸収されるものの、防

漏シート4によって外部に漏出することは防止される。また、排泄液が立ち上げ片31に達したとしても、立ち上げ片31は、第1の接着剤6によって貼り合わされているため、排泄液が立ち上げ片31を透過することは確実に防止される。

【0026】

つぎに、第3実施形態について説明する。

図3および図4は第3実施形態を示す。

図3(a)に示すように、液保持性の吸収体5の内面側を覆う表面シート3の表面には、一対の防漏用のカフ30が設けられている。カフ30は、着用者の身体の表面に対面する表面シート3の表面部38から立ち上がるよう折り曲げられ、該折り曲げられて形成された一対の立上部39、39によって、二重に折り重なって形成されている。そのため、先端部36において折り返されたカフ30は、断面がヘアピン状に二重になっている。なお、各カフ30は、互いに外方に向って折り曲げられている。

【0027】

前記一対の立上部39、39の基端部35の間には、接着部37が設けられていてもよい。前記接着部37に第1の接着剤6を塗布することで、立上部39の基端部35同士を接着し、カフ30が二重に折られた状態が保形される。なお、第1の接着剤6は、前記接着部37にのみ塗布され、その他の立上部39、39の間には塗布されていない。

【0028】

カフ30に達した排泄液は、該カフ30によって下方向(吸収体5へ向かう方向)に向かい、表面シート3を介して吸収体5に吸収される。したがって、液透過性の表面シート3でカフ30を形成しても、ある程度、排泄液の漏れを防止することができる。

【0029】

図4(a)に示す表面シート3と裏面の防漏シート4との周囲は、たとえば、ヒートエンボス加工により互いに貼り合わされてもよい。かかる場合には、カフ30の長手方向Xの両端部32が表面シート3に固定され、カフ30が表面シート3の表面に沿って折り込まれた状態に形成されてもよい。

【0030】

一方、図4（b）の表面シート3と吸収体5とを熱融着ないし接着剤により互いに接着してもよい。表面シート3と吸収体5とを接着する部分は、図4（a）に二点鎖線および破線で示す接着エリア33であってもよい。

表面シート3と吸収体5との間には、トランスファーシート50を介挿してもよい。

【0031】

前記接着エリア33内にエンボス加工を施してもよい。エンボス加工により形成される孔の形状としては、図4（a）の円形34の他に方形や菱形などであってもよい。

【0032】

また、図3（b），（c）に示すように、表面シート3が防漏シート4に接着された部分に前記カフ30を設けてもよい。

かかる場合には、図3（b）に示すように、カフ30の基端部35と防漏シート4との間に第1の接着剤6を介して、基端部35と防漏シート4とを接着して、カフ30の二重となっている状態を保形するようにしてもよい。

【0033】

なお、必ずしも第1の接着剤6を用いて立上部39，39同士を接着する必要はない。たとえば、図3（c）に示すように、両立上部39の基端部35同士を熱融着により互いに接着してもよい。

【0034】

その他の構成および使用方法は、第1実施形態と同様であり、同一部分または相当部分に同一符号を付して、その詳しい説明を省略する。

【0035】

なお、前述した実施形態においては、生理用ナプキン1について説明したが、生理用ナプキン1に限定するものではなく、また、使用状況によっては、本体2の左右各側縁に略台形状のウイング部を形成してもよいし、本体9がウイング部を有さなくてもよい。

【0036】

また、前述した立ち上げ片31やカフ30は、生理用ナプキンだけではなく、使い捨てオムツやパンツ（以後、これらを単にパンツという。）に用いることができる。パンツのレッグホール周りに立ち上げ片が用いられる場合、排泄液がパンツから脚を伝わって漏れることを妨げることができる。また、男性用パンツの場合、パンツの前身ごろに立ち上げ片が用いられることにより、排泄液がパンツの前部から漏れることを妨げることができる。

【0037】

また、表面シート3と吸収体5の間には、排泄液を略一方向、つまり表面シート3から吸収体5に導くトランスファシートが挿入されていてもよい。トランスファシートは、メッシュ状であってもよい。

【0038】

また、吸収体5には、表面シート3の上からエンボス加工が施されていてよい。このため、吸収体5の形状を整えたり、吸収体5の吸収率を上げることができる。

【0039】

【発明の効果】

このように本発明によれば、吸収体を包むシートでカフや立ち上げ片を形成したので、カフや立ち上げ片を表面シートや防漏シートとは別の部材で形成し、該各シートに接合する工程が不要となる。したがって、製造コストを大幅に削減することができる。

また、カフや立ち上げ片を他のシートとは異なる種類の材料で形成することなく、カフや立ち上げ片としての機能を維持することができるので、材料コストを削減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1実施形態にかかる吸収性物品である生理用ナプキンを示す断面図である。

【図2】

同生理用ナプキンの第2実施形態を示す断面図である。

【図3】

(a) は第3実施形態にかかる吸収性物品である生理用ナプキンを模式的に示す断面図、(b) および(c) は他の例を示す生理用ナプキンの模式的な断面図である。

【図4】

生理用ナプキンの平面図および模式的な断面図である。

【図5】

従来の吸収性物品である生理用ナプキンの一例を示す斜視図である。

【図6】

図3の生理用ナプキンのI-I線断面図である。

【符号の説明】

1 生理用ナプキン

2, 9 本体

3 表面シート

3 0 カフ

3 1 立ち上げ片

3 5 基端部

3 7 接着部

3 8 表面部

4 防漏シート

5 吸收体

6 第1の接着剤

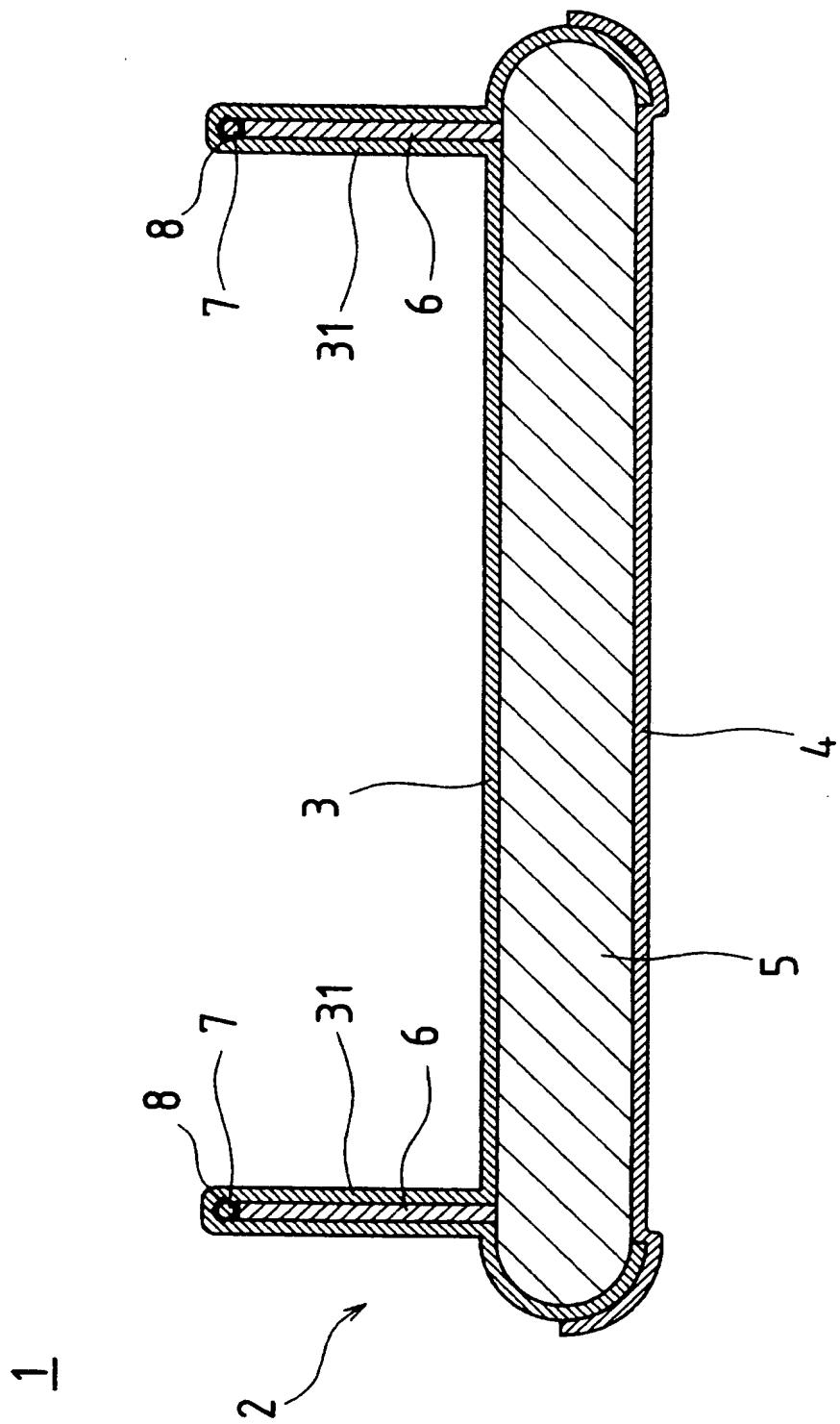
7 弹性体

8 第2の接着剤

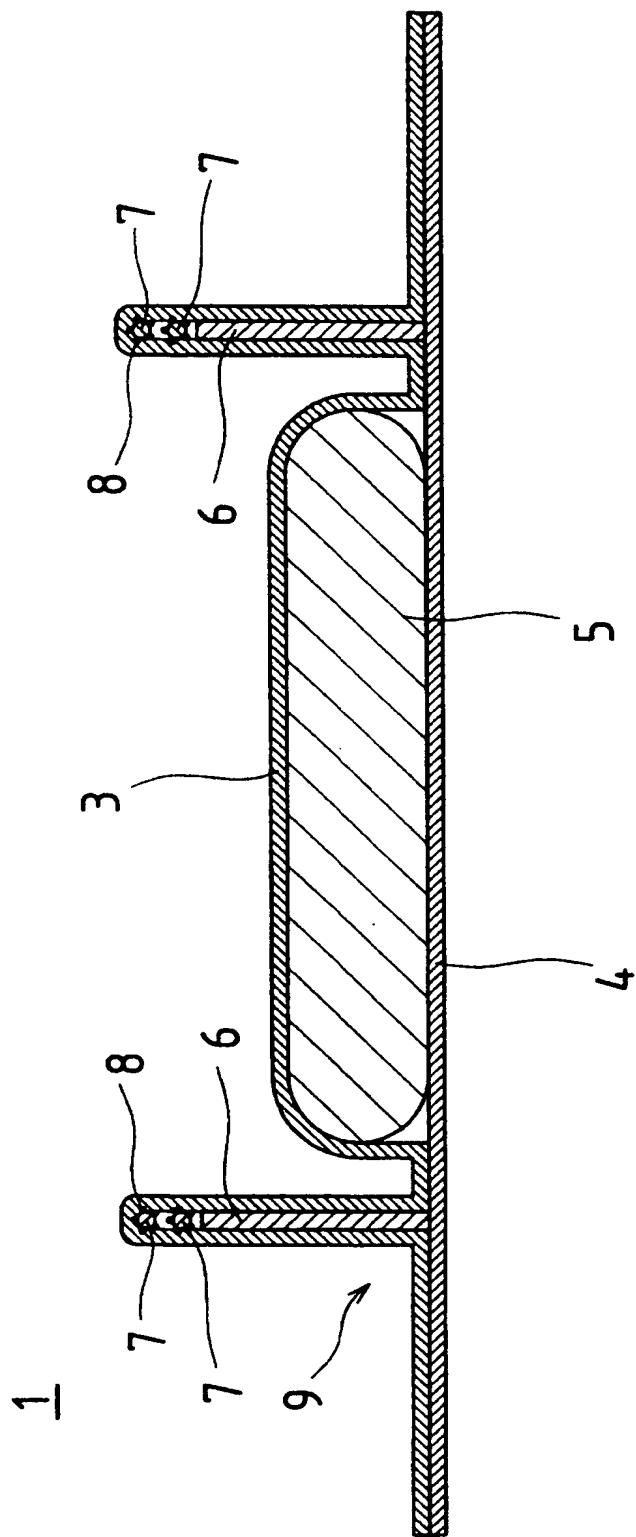
【書類名】

図面

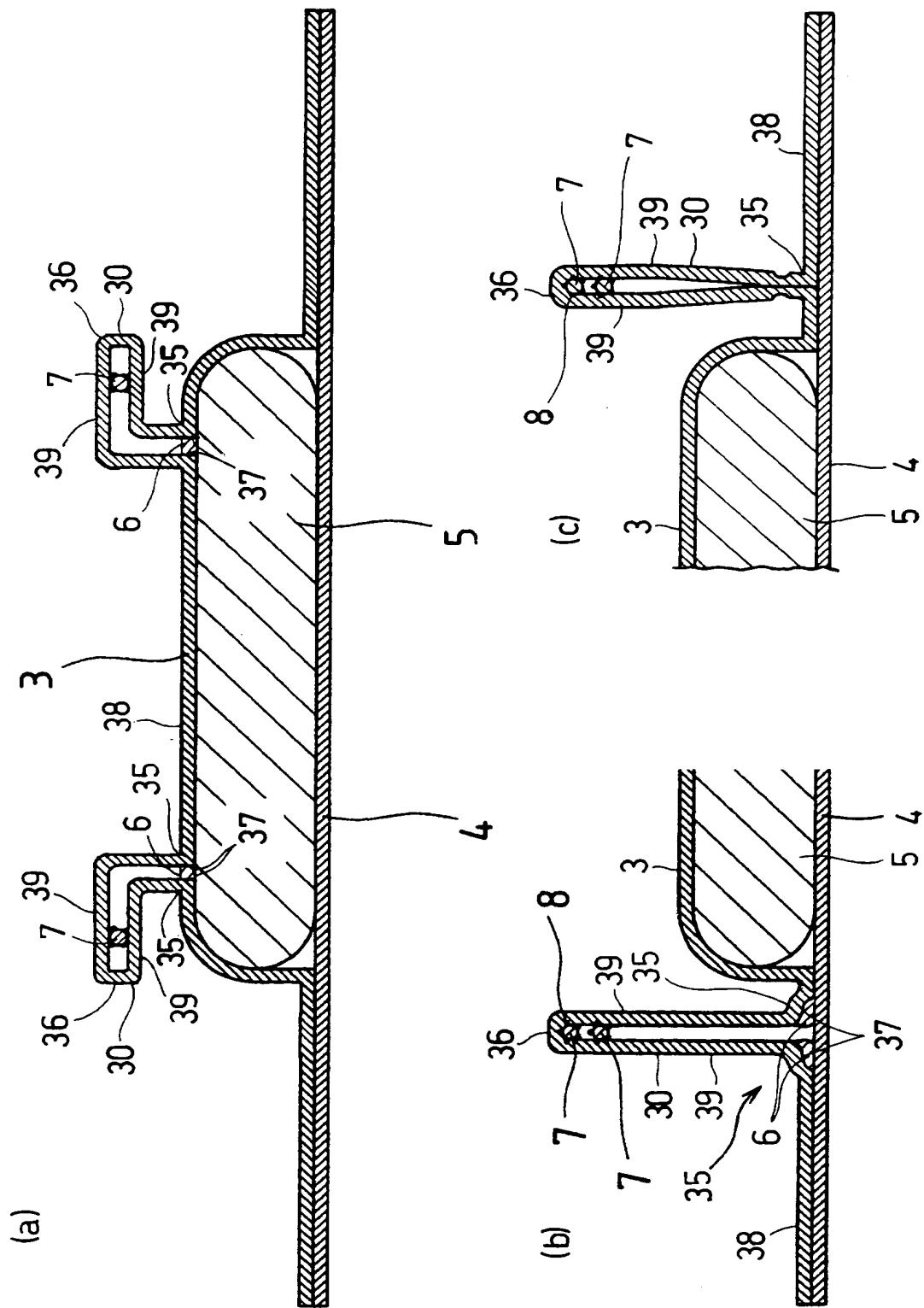
【図1】



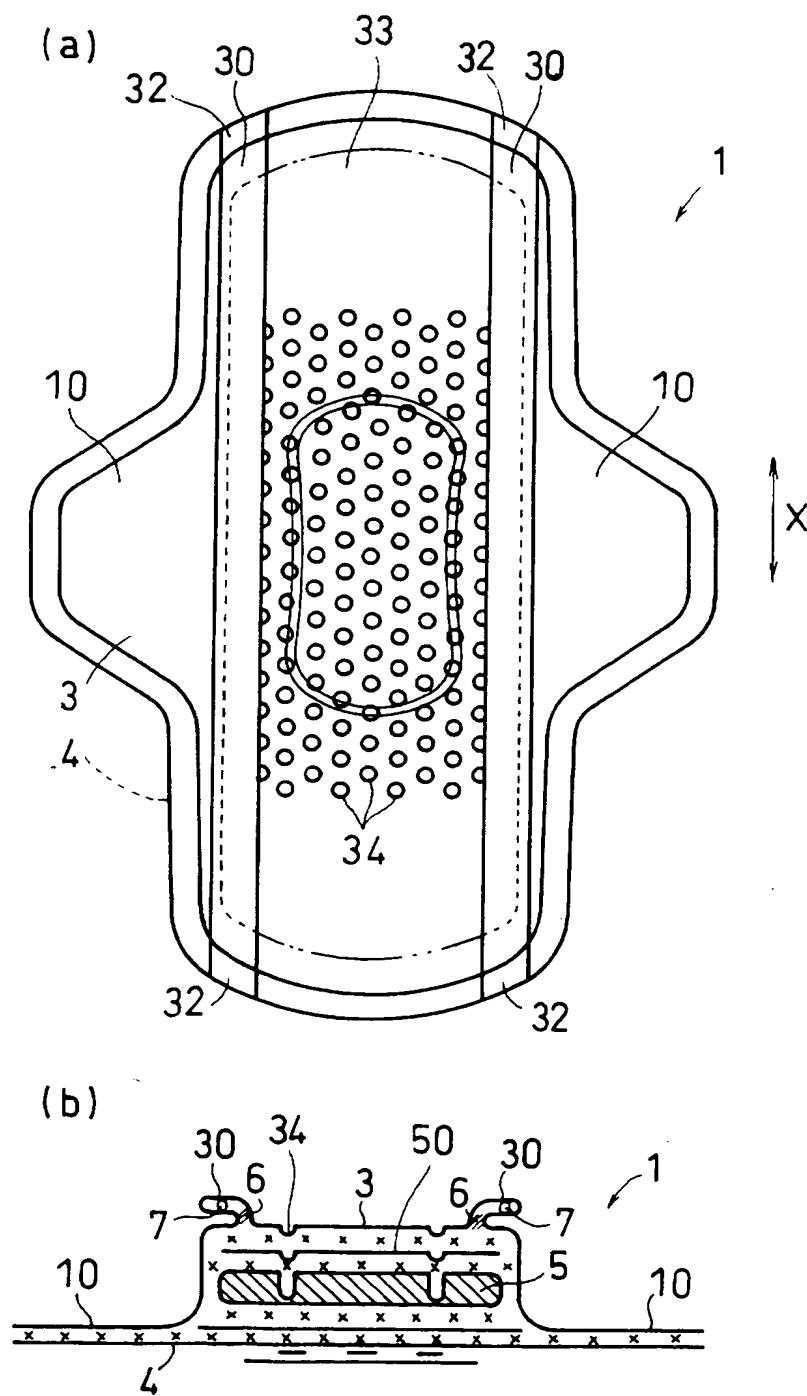
【図2】



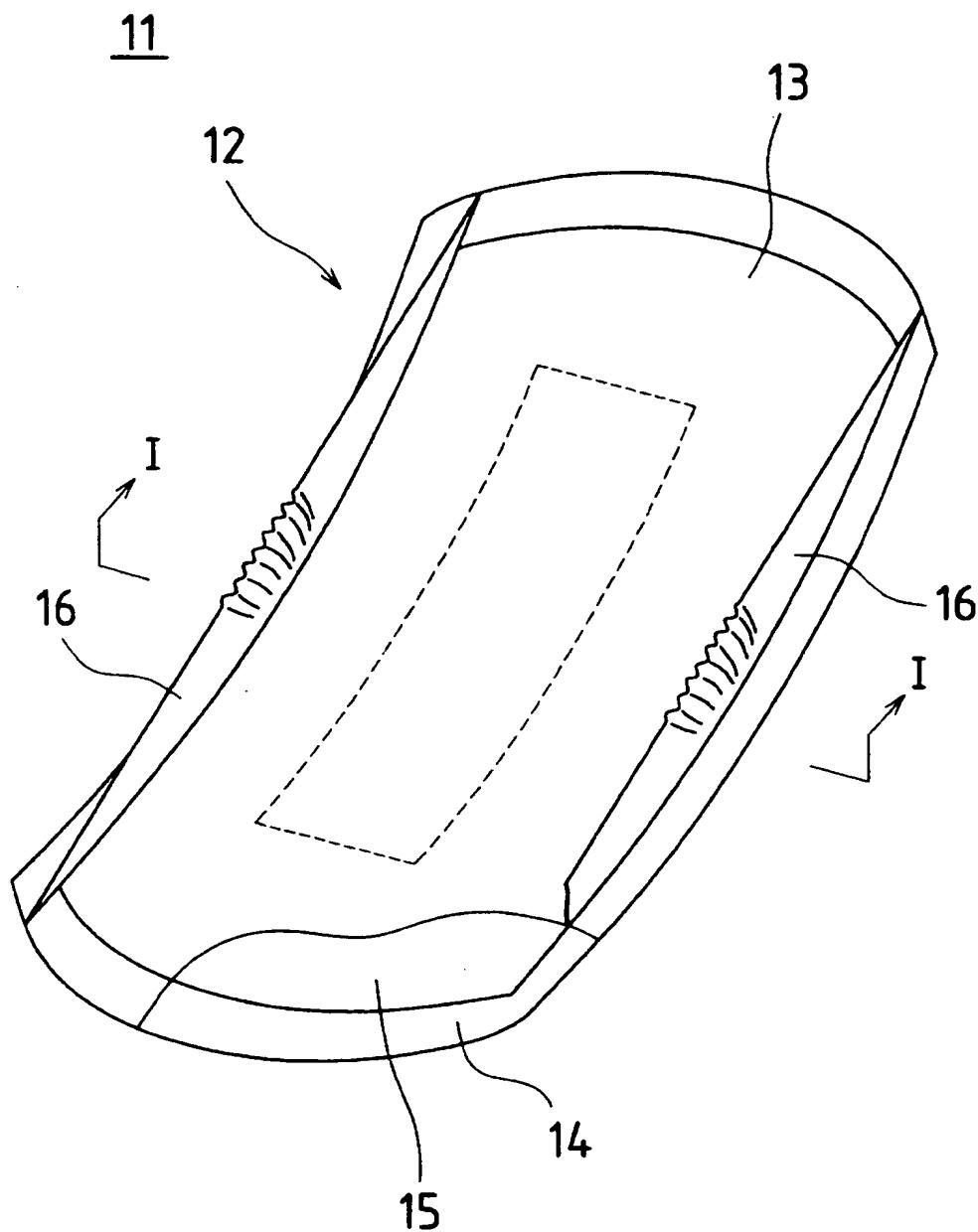
【図3】



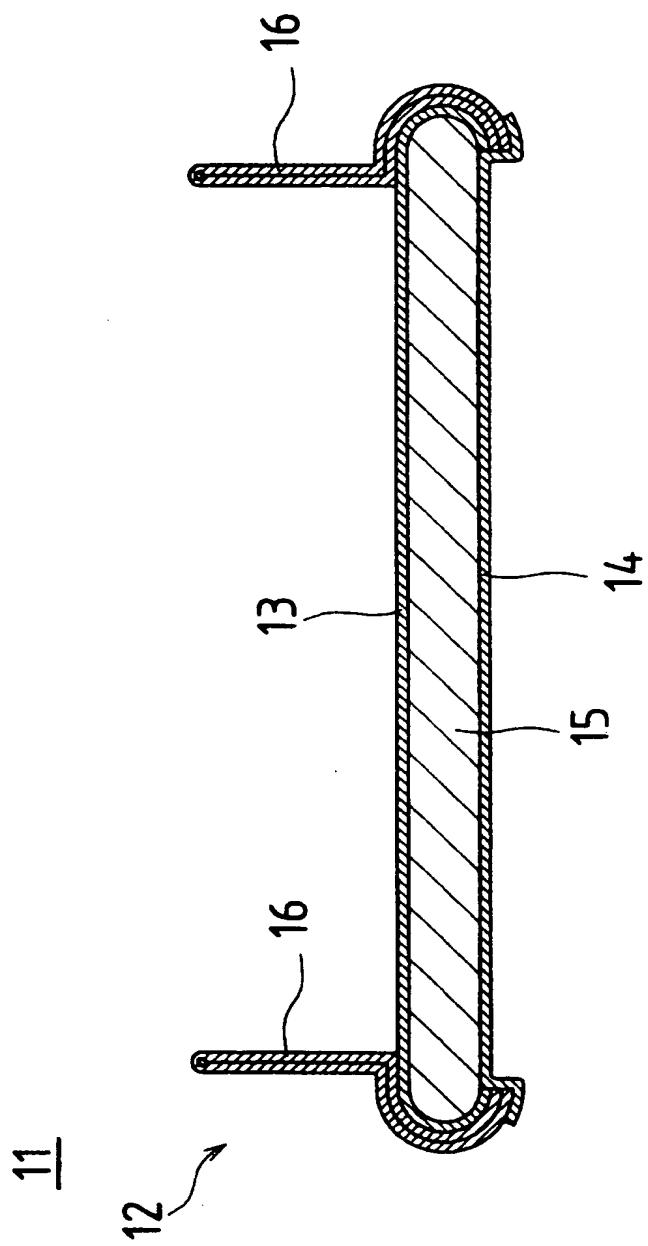
【図4】



【図5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 立ち上げ片としての機能を損なうことなく構成材料の種類の増加を抑え
てコストを削減する。

【解決手段】 液透過性の表面シート3と、液不透過性の防漏シート4と、これらの表面シート3および防漏シート4間に介在された液保持性の吸収体5と、からなる縦長状の本体2を少なくとも有する吸収性物品1において、本体2の左右各端縁近傍に位置して表面シート3を折り込んで一対の立ち上げ片31が形成され、各立ち上げ片31は、液不透過性のホットメルト接着剤6を介して接着されている。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2002-379009
受付番号 50201982028
書類名 特許願
担当官 第五担当上席 0094
作成日 平成15年 1月 8日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年12月27日

次頁無

出証特2003-3080032

特願2002-379009

出願人履歴情報

識別番号 [591040708]

1. 変更年月日 1990年12月20日

[変更理由] 新規登録

住所 大阪府摂津市南別府町15番21号
氏名 株式会社瑞光